

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	国際ことば学院外国語専門学校
設置者名	学校法人 国際ことば学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程	外国語	夜・通信	0 単位時間	160 単位時間	※
	ビジネスコミュニケーション	夜・通信	525 単位時間	160 単位時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://sp.kotoba.ac.jp/courses

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名 外国語学科
(困難である理由) 韓国語・中国語・英語など外国語を学び、言語能力を証明する各種試験の合格を目指すという言語学科の特性上、特定の職業や職種に直結した授業科目ではないため、実務経験のある講師を配置するのは困難である。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	国際ことば学院外国語専門学校
設置者名	学校法人 国際ことば学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

http://sp.kotoba.ac.jp/self-assessment

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	市議会議員	2024.6.1～ 2026.5.31	組織運営に対する 助言
非常勤	会社経営	2024.6.1～ 2026.5.31	経営に対する助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	国際ことば学院外国語専門学校
設置者名	学校法人 国際ことば学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスには、授業の概要と目的、到達目標、授業の方法と進め方、評価の方法を記載している。授業計画についても、自由選択科目(試験対策・海外研修)以外は記載している。</p> <p>授業シラバスは、前年度の授業シラバスと授業記録をもとに各授業を担当する講師が作成する。ただし、複数の講師が担当している授業に関しては、言語科の主任または代表者が作成を行う。新生生の状況を踏まえ、シラバス作成担当者は、授業開始から2週間程度で授業計画の調整を行い、4月中に提出する。5月中にPDFファイルにまとめ、学校のホームページ上で公開する。</p>	
授業計画書の公表方法	http://sp.kotoba.ac.jp/courses
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>講師による評価に関しては、担当講師がそれぞれの授業について授業シラバスに記載しているように、複数の項目を設けて点数をつけ、それらを総合して100点満点となるように評価を行っている。評価項目は授業科目により多少異なるが、出席や授業中の発話・課題などを通して意欲の評価を行い、テストまたはレポート・プレゼンテーションなどの発表を通して成果の評価を行っている。</p> <p>複数の講師が担当している科目(主に英語・日本語などの言語科目)については、担当する授業時間数に応じて評価に関わる割合を決めている。英語・日本語の言語科目に関しては、各学期(2年生の3学期以外)に校内試験を行い、校内全体における実力や到達度を測るとともに、成績評価にも反映させている。</p> <p>評価がA～Dであれば、履修が認定される。(Eは不可)</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績の評点 (GP) をA=4、B=3、C=2、D=1、E=0とし、評点の平均値 (GPA) を算出する。</p> <p>《算出方法》</p> <p>評点の平均値 (GPA) = (【評点×単位数】の合計) ÷ 取得単位数の合計</p> <p>※単位認定をされても評価がつかない科目 (海外研修など) は、平均値の計算に含まない。</p> <p>※自由選択科目の履修を希望したが、出席が3分の2に満たなかった場合、無効となり、成績表にも記載されない。</p> <p>評点の平均値 (GPA) を用いて、コース内での順位を出す。</p> <p>ただし、順位については公表していない。</p> <p>上記の法典の平均値算出方法については、入学・進級オリエンテーションの際に配布する「Student Handbook」に記載してある。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>http://sp.kotoba.ac.jp/courses</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校では、語学を中心とした科目を、文化的背景が異なる学生とともに学ぶことで、コミュニケーション力を身につけ、多文化共生社会で活躍できる人材を育成することを目的としている。</p> <p>このような教育理念を踏まえ、以下の①～③の進級・卒業条件を満たしていることと、その他問題がないことを、校長・事務長とクラス担任をしている常勤教員全員で審査・確認し、進級・卒業の認定を行っている。</p> <p>① 出席時間数が3分の2以上であること。</p> <p>② 成績評価にE (不可) がないこと。</p> <p>③ 定められた校内試験を受けていること。(※)</p> <p>(※) 校内試験を受けなかった場合、追試を課す。ただし、特別な理由がなければ結果は8割となる。</p> <p>進級・卒業の認定に関しては、入学・進級オリエンテーションの際に配布する「Student Handbook」にも記載されており、説明も行っている。</p> <p>以上は、学則第5章「成績評価、課程の修了及び卒業」の第18条、第19条に定めるところによる。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>http://sp.kotoba.ac.jp/courses</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	国際ことば学院外国語専門学校
設置者名	学校法人 国際ことば学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://sp.kotoba.ac.jp/self-assessment
収支計算書又は損益計算書	http://sp.kotoba.ac.jp/self-assessment
財産目録	http://sp.kotoba.ac.jp/self-assessment
事業報告書	http://sp.kotoba.ac.jp/self-assessment
監事による監査報告（書）	http://sp.kotoba.ac.jp/self-assessment

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報（1/2）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		専門課程	外国語学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1740 単位時間	1800 単位時間	300 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1800 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		18人	0人	4人	19人	23人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）シラバスには、授業の概要と目的・到達目標・評価の方法・授業計画を記載している。前年度の授業記録などをもとに作成し、特に複数の講師が担当している科目に関しては、言語科の主任または代表者が作成を行う。担当者は4月中に作成し、提出。5月中にはPDFファイルにまとめ、学校のホームページ上で公開する。
成績評価の基準・方法
（概要）本校の教育の柱となる言語科目（韓国語・中国語・英語）に関しては、複数の講師が授業を担当し、評価を行っている。さらに、校内試験を課し、その結果も算入している。それ以外の科目に関しては講師による評価のみだが、講師評価に際しては、複数の項目（3～4項目）を設定することで適正な評価が行われるようにしている。評価項目については、授業シラバスに記載している。
卒業・進級の認定基準
（概要）以下の①～③の進級・卒業条件を満たしていることと、その他問題がないことを、校長・事務長とクラス担任をしている常勤講師全員で審査・確認し、進級・卒業の認定を行っている。
① 出席時間数が3分の2以上であること。
② 成績評価にE（不可）がないこと。
③ 定められた校内試験を受けていること。

<p>学修支援等</p> <p>(概要) 入学前の特別奨学生制度を設け、学費の減免を行っている他、公的支援制度の案内や相談受付も行っている。希望者には相談の上、学費の分納も認めている。また、突発的な病気や事故の際の支援体制も整っている。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
9人 (100%)	4人 (44.5%)	3人 (33.3%)	2人 (22.2%)
(主な就職、業界等) 貿易、通訳、物流、サービス、ホテル宿泊、製造等			
(就職指導内容) 個別就職相談。ハローワークと連携した面接指導、履歴書指導。 職場見学・インターンシップの実施。 学内企業説明会の実施。留学生に対しては、在留資格変更の手続きのフォロー。			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 【英語】 TOEIC 500点以上：1名、 実用英語検定 準2級：1名、3級：1名 【韓国語】 S-TOPIK 6級：1名、5級：3名、4級：1名、3級：2名 ハングル検定 2級：1名、3級：7名 【中国語】 HSKネット試験 4級：3名、3級：1名			
(備考) (任意記載事項) 卒業生のうち「その他」には、留学準備中の者を含む。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24人	4人	16.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更・体調不良など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 週1回定期的に行われる担任会議などで、学生の状況については常に情報共有している。個別相談や欠席者の自宅訪問なども行っている。教職員へのカウンセラー資格取得を勧めていく予定。		

①学科等の情報 (2/2)

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		専門課程	ビジネスコミュニケーション学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1740 単位時間	1800 単位時間	300 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1800 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		153人	151人	4人	19人	23人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) シラバスには、授業の概要と目的・到達目標・評価の方法・授業計画を記載している。前年度の授業記録などをもとに作成し、特に複数の講師が担当している科目に関しては、言語科の主任または代表者が作成を行う。担当者は4月中に作成し、提出。5月中にはPDFファイルにまとめ、学校のホームページ上で公開する。
成績評価の基準・方法
(概要) 本校の教育の柱となる言語科目(韓国語・中国語・英語)に関しては、複数の講師が授業を担当し、評価を行っている。さらに、校内試験を課し、その結果も算入している。それ以外の科目に関しては講師による評価のみだが、講師評価に際しては、複数の項目(3~4項目)を設定することで適正な評価が行われるようにしている。評価項目については、授業シラバスに記載している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 以下の①~③の進級・卒業条件を満たしていることと、その他問題がないことを、校長・事務長とクラス担任をしている常勤講師全員で審査・確認し、進級・卒業の認定を行っている。 ① 出席時間数が3分の2以上であること。 ② 成績評価にE(不可)がないこと。 ③ 定められた校内試験を受けていること。
学修支援等
(概要) 入学前の特別奨学生制度を設け、学費の減免を行っている他、公的支援制度の案内や相談受付も行っている。希望者には相談の上、学費の分納も認めている。また、突発的な病気や事故の際の支援体制も整っている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15人 (100%)	1人 (6.7%)	12人 (80%)	2人 (13.3%)
(主な就職、業界等) 貿易、通訳、物流、サービス、ホテル宿泊、製造等			

<p>(就職指導内容)</p> <p>個別就職相談。ハローワークと連携した面接指導、履歴書指導。 職場見学・インターンシップの実施。 学内企業説明会の実施。留学生に対しては、在留資格変更の手続きのフォロー。</p>
<p>(主な学修成果 (資格・検定等))</p> <p>【英語】 TOEIC 900点以上： 2名、700点以上： 4名、 実用英語検定 【日本語】 JLPT N1： 3名、N2： 11名</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
88人	4人	4.5%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>就職・帰国・体調不良など</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>週1回定期的に行われる担任会議などで、学生の状況については常に情報共有している。個別相談や欠席者の自宅訪問なども行っている。教職員へのカウンセラー資格取得を勧めていく予定。</p>		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
外国語	80,000円	720,000円	60,000円	教材費・施設費
ビジネスコミュニケーション	80,000円	720,000円	60,000円	教材費・施設費
<p>修学支援 (任意記載事項)</p> <p>① 高等学校の成績が優秀で、学校長が推薦した者 (留学生の場合は、日本語学校の出席・成績優秀者で、学校長の推薦がある者)</p> <p>② 各種資格取得者 (実用日本語検定・TOEIC・ハングル検定・HSK・日本語能力試験など)</p> <p>③ その他、出席・成績、資格取得など、特に優秀と認められる者</p> <p>※ 教務と協議して決定する</p>				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://sp.kotoba.ac.jp/self-assessment		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 「自己点検・自己評価」の結果に基づき決定した、教育・学生支援・組織運営に関する各年度の重点目標とその達成状況について報告し、様々な視点から意見や助言をいただき、学校の運営と教育活動に活かす。委員の構成は、卒業生1名、在校生の保護者1名、地域住民1名、業界関係者3～5名(2025年度6月現在は3名)。委員会には学校側から校長・事務長・学科長・就職担当・学生募集担当が出席し、いただいた意見や助言を基本的には年度内の取り組みの中で繁栄させていく。委員会は年3回行い、授業見学会も年1回行う。 第1回 学校関係者評価委員会：6月下旬 ・前年度の重点目標に関する最終報告、前年度卒業生の進路状況に関する報告 ・新年度授業開始時の学生状況等の報告と今年度の重点目標と達成計画について 授業見学会 及び 第2回 学校関係者評価委員会：10月～11月 ・今年度の重点目標に関する取り組みの進捗状況の報告 ・上半期の学校行事・学外コンテスト・国際交流活動と就職支援状況の報告 第3回 学校関係者評価委員会：3月下旬 ・今年度の重点目標に関する取り組みと達成状況の報告 ・学生募集の状況と卒業生の進路状況の報告		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
地域学区自治会会長	2024.6.1～2026.5.31	地域住民
会社経営者	2024.6.1～2026.5.31	業界関係者
レストラン経営者	2024.6.1～2026.5.31	卒業生
在校生父兄	2025.6.1～2026.5.31	保護者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://sp.kotoba.ac.jp/self-assessment		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)	
ホームページアドレス	http://sp.kotoba.ac.jp/
地球通信(ダウンロード版)	http://jp.kotoba.ac.jp/commun/